

黒揚羽蝶

丸山弘子

植樹され三叉路に咲くさくらにて「プリンセス雅」花の色濃し
駅向ふに住む母親を呼びよせてさくら見物といふ若き夫婦は
友の待つ吉祥寺までのバスにして開発すくなき古き町ゆく
あたたかき啓蟄の日よすすめらに残しおきたる飯をまきやる

パン屑を撒くを待ちゐる鶉ひよどりの番つがひか今朝は二羽で来てをり
はやばやと黒揚羽きて花色の濃きおほむらさきの花にまつはる
色を忌み黒揚羽蝶の去るまでを寿の文字書きたるとふ亡母はは
畳おもてのスリッパ足裏あうらにやさしくすすめくれたる姫をおもふ
右足のむくむを言ひてソックスのゴム跡しるきを弟は見す
戸締りの前のひととき中空の清明の夜の上弦の月